

水辺のふるさと かつしか

秋号

2020.6 - 8

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：シオカラトンボの雄

撮影場所：水元2丁目

写真提供：佐々木 定治さん

目次

- 1 55種の動植物調査結果 P 2
- 2 自由レポート P 3 ~ 18
- 3 季節の写真集 P 19 ~ 21
- 4 秋号の豆知識 P 22
- 5 魚からの便り P 23 ~ 26
- 6 環境課からのお知らせ P 27 ~ 29

編集担当のひとこと



令和2年9月4日に自然環境レポーター委嘱式及び事業説明会を行いました。今年度は、中学生2名も加わり、42名のレポーターの皆様と一緒に葛飾区に生息する動植物等の調査をしていきたいと思っております。

そして、今回は個体の特徴や注意点、色々な知識を習得していただける「秋号の豆知識」というページを設けてみました。観察する時に役立つ情報も入れていけたらと思っておりますので、ぜひご覧ください。

秋らしくなり、窓を開けると虫の声が聞こえて過ごしやすい季節となりました。

散歩をしながら、色々な動植物に出会い、新しい発見があるかもしれませんね。

皆様からのレポートを楽しみにしております。



丸山

55種の動植物 調査結果(6月~8月)

【調査区2】 計21種

〈鳥類〉 コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ、コガモ、コサギ、
 〈昆虫〉 アキアカネ、オオカマキリ、エンマコオロギ、カンタン、
 トノサマバッタ、クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、
 クロアゲハ、ナミアゲハ、**アカボシゴマダラ**
 〈植物〉 スギナ、**ナガミヒナゲシ**、**シロツメクサ**、スズメノエンドウ、
イモカタバミ、**アレチウリ**、オオバコ、カントウタンポポ、ツユクサ、
ジュズダマ、ススキ
 〈底生動物〉 ベンケイガニ

【調査区3】 計19種

〈鳥類〉 ツバメ、シジュウカラ、
 〈昆虫〉 エンマコオロギ、
 アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、
 ナガサキアゲハ、クロアゲハ、
 ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
 〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、
ナガミヒナゲシ、**シロツメクサ**、
イモカタバミ、**アレチウリ**、ツユクサ
 〈ほ乳類〉 **アライグマ**
 〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**
 〈クモ類〉 ジョロウグモ

【調査区1】 計3種

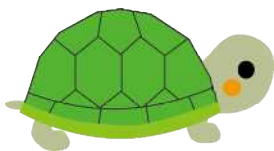
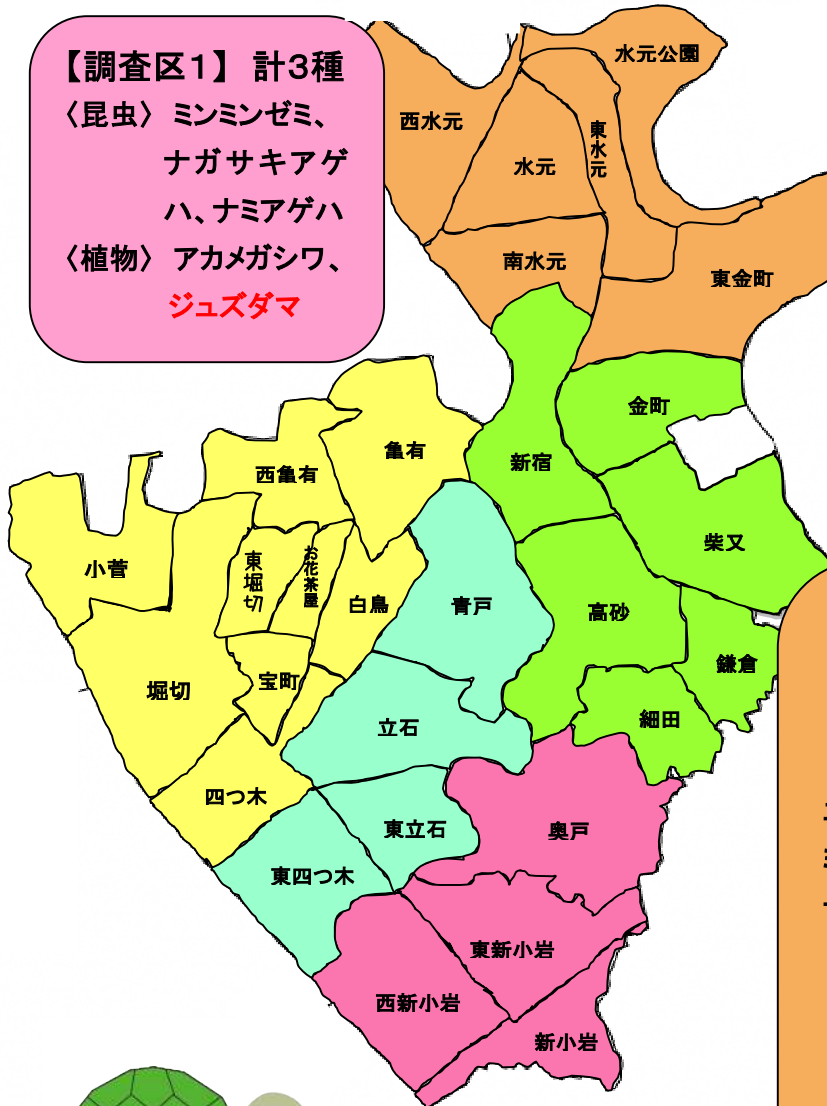
〈昆虫〉 ミンミンゼミ、
 ナガサキアゲハ、ナミアゲハ
 〈植物〉 アカメガシワ、
ジュズダマ

【調査区4】 計7種

〈鳥類〉 ツバメ、シジュウカラ
 〈昆虫〉 アキアカネ、カンタン、オオカマキリ、
 アブラゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、
 ニイニイゼミ、クロアゲハ、ナミアゲハ、
 〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、
 ツユクサ、**ジュズダマ**、

【調査区5】 計25種

〈鳥類〉 コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ、
 コサギ、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ
 〈昆虫〉 ギンヤンマ、オオカマキリ、
 エンマコオロギ、クマゼミ、アブラゼミ、
 ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、クロアゲハ、
 ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、**アカボシゴマダラ**
 〈植物〉 アカメガシワ、**ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、セリ、オオバコ、ツユクサ、
ジュズダマ、ススキ
 〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**、**ウシガエル**、
 ニホンカナヘビ、
 〈クモ類〉 ジョロウグモ、



赤字は外来種だよ

氏名	散歩の花子	町名	西新小岩	調査区	1-4
----	-------	----	------	-----	-----



6月 中川左岸緑道のランタナの花に
ナミアゲハです。

オスカメスカは、わかりません。

7月

梅雨空の下で、涼しげな色の

<アガパンサス>です。



7月下旬

そして、花はサヤになりました。

<アガパンサスのサヤ>



氏名	散歩の花子	町名	東四つ木	調査区	2-8
----	-------	----	------	-----	-----

中川左岸緑道では、植え込みの管理をする人もいて、6月には様々な花が咲いています。

< ヒペリカムの実です : オトギリソウ科 >



< アカンサス >



< タチアオイ >



桜の大木の元に、アカンサスが群れています。
ハアザミと言いますが、葉が成長しすぎ？

中川左岸緑道には例年、タチアオイの街道が
できますが、今年は少なかったです。
ここだけ赤く赤くがんばっています。

夏が逝く



弥生さくら草

今まで長く生きてきた中で戦時中や戦後を除いたら、今年は特に悲惨な年だった。世の中の人々がコロナに怯えてマスクをしているのは異様な光景である。大きな声で話さない。外出をしないなど。予定通りだったら今年は東京オリンピックが開催されている筈なのに…、スポーツも劇場もひっそりとしている。それらをテレビや PC を通して観戦している人が多いのだから——。社会に多大な影響を与えたコロナは春の頃から流行し始め、夏を越えても未だに衰えることが無い。いつになったらこれらから解放されてマスクをしないで外出できるのだろうか。我が家では、夫が闘病中で毎日痰取りは欠かせない。次女も皮膚病が簡単に治らなかった。兩人共コロナの検査を勧められ、その結果が出るまで不安を抱えて過ごした。結果は陰性でまずは安心したけれど、コロナ患者には精神的にも療養上からも苦痛の日々だと思う。早々に治療法が開発されることが待たれる。

今年はお盆が過ぎても雨が降り続いた。処々に豪雨をもたらした被災地では洪水になった。それが梅雨明け後は連日猛暑になり、記録的な暑さは熱中症とコロナ対策に追われた。植物も水遣りが忙しかった。異様な暑さでそれに弱い植物の葉は脱色したように斑まだらになっている。

それでも蝉の鳴く声が聴こえると思ううちに、朝夕には秋の虫の声が聴こえ始めた。いつになったら涼しくなるだろうか？と思ったのだが季節は廻るのだ。今朝、庭の草叢くさむらの中に彼岸花の芽を見つけた。彼岸も近い。その頃には暑さも遠くなり絶好の季節である。その頃にはコロナが下火になりますように…、祈っています。庭のさるすべりは未だに健在で咲き誇っている。令和2年9月16日

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2020年6月20日

それぞれのソーシャルディスタンス

現在、コロナウイルスから身を守るためにソーシャルディスタンスをとることがもとめられています。

冬、水鳥を公園で見ていると、それぞれがあまり近づくとクチバシで突っついてケンカというか小競り合いをしていました。しかし大きく離れて群れでなくなるほどにはなりません。餌の藻が自分の分確保できるぐらいの距離のようです。

水鳥の種によっても、ソーシャルディスタンスは異なるようで、鴨の仲間の方が一般的に距離が近く、オオバンなどの方が距離をとっているように感じました。それぞれの種によって距離は異なるようです。

今回、人間が行っているソーシャルディスタンスはあくまでもコロナウイルスという感染症から身を守るための距離で、本来の人間がとるべき人と人の距離はどのぐらいなのだろうと思いました。

東京では皆が満員電車を怖がり、スーパーの混雑を怖がり、世界の都市部ではコロナウイルスが広がりました。

あまり真剣に社会的な距離の議論をすると世知辛くなりそうなので、人間以外の生き物の距離などを見つめるのが良いかなと思いました。

人間以外の生物の距離の取り方、異なる生物同士の距離をより観察することで、人間の知恵にしてゆくことができるのではないかとと思いました。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2020年7月1日

国際的に日本の石炭火力発電が問題視されていますが・・・。

日本の石炭火力発電が問題視されていますが、CO₂（二酸化炭素）の発生が他の発電方法に比べて多いからようです。

CO₂（二酸化炭素）やその他の温暖化物質の発生を抑えることが国際的に推奨されていることは確かです。

私が本で読んだ範囲では、石炭火力発電にも環境的に貢献する側面があるようで、石炭を細かくして微粉炭という形にして発電の燃料にし、その排気ガスを処理する過程で粉じんが出て、その粉じんダストの大きさが細かくてセメントの原料として最適らしいです。

以前にも書いたのですが、セメント産業は様々な業種から出る、様々な廃棄物を原料にして製品を作って最終処分場の延命など環境に貢献している様で、石炭火力から出るダストはセメント原料の中でも重要なものようです。

石炭火力から出る CO₂（二酸化炭素）が環境に良くないのは確かな様ですが、多くの産業から出る大量の廃棄物の処理をになっているセメント産業で重要な原料になっているので、無くなると大量の廃棄物のリサイクルが阻害される可能性があり、私にはどちらの方法が良いのか調べてもよくわかりません。

ただ、物事を1面からだけ見てすべてを良くないと言い切るのは危険かなと思いにしているのですが・・・。

最も、石炭火力発電に反対されている方はそのあたりもすべて知っていて反対しているのかも知れません。

追記：7月2日、低効率な古い石炭火力発電所の休廃止が政府により発表されました。

参考文献

参考資料1*

新・公害防止の技術と法規 2019 大気編

一般社団法人 産業環境管理協会 2019年2月10日 発行

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2020年8月1日

区全体がテーマパークのようになる

この自然環境レポーターに参加している方は知っていると思いますが、自然に少し関心を持ったら、区全体がテーマパークと同じぐらい楽しくなります。

近所に自然なんて何もないと思っていたのですが、少し自然に関心を持ったら、都会でも珍しい植物がアスファルトを割って生えていたりして、今週はスミレがカワイイ、今週あたりはカモが渡って来る、あそこに行くとき青い鳥を見ることができる等、もう少し家に居る時間が欲しいと思うほど、毎週何かしら見所があります。

お祭りに行かなくても毎週何かありますし、私は桜などの混雑するところをスキップして別の花を見に行ったりします（その時期に他のキレイな花が咲いたりしているんですよ。内緒。）。

普段、満員電車に乗り、何か催し物や買物に行くだけでも人が多く、祭りなど面倒で、普段の疲れをとるために家の中で過ごすという方も多いと思うのですが、人の少ないところにこそ他の生物は多いので、そういう方にもオススメです。

私は自然を知ることによって、地域や現実に対し肯定感を持って、前向きな気持ちになれます。

生物の種類は多いので、始めはとっつきにくいのですが、その場合はこのような自然環境レポーターや観察会などに参加すると早いです。豆図鑑などでも十分楽しめます。

最近、マイクロツーリズムが推奨されていますが、区内だけでは経済効果はないでしょうけど、近隣区と比較して観察するのも少し場所が違ったりするだけで見られないと思っていた生き物がいたりして、見ると為になります。

氏名：藤並 剛 町名：亀有 調査区：3

6月7日(日)午前9時頃、天気は晴れ(風なし)、気温は21度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、シジュウカラ(1)、スズメ、ムクドリを見つけた。昆虫は、ヤマトシジミ(2)を見つけた。植物は、ムラサキカタバミ、イモカタバミ、カタバミ、エノコログサ、ヒメジョオン、ヒメコバンソウ、コヒルガオ、ノゲシ、ナガミヒナゲシ、ドクダミを見つけた。アジサイやサツキ、ツツジの花が咲いていた。

6月21日(日)正午頃、天気は曇り(風少し有)、気温は25度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、オナガ(2)、ヒヨドリ(3)、スズメを見つけた。昆虫は、モンシロチョウ(1)、ヤマトシジミ(2)、ナミアゲハ(1)を見つけた。植物は、イモカタバミ、カタバミ、アメリカセンダングサ、エノコログサ、ヒメジョオン、ドクダミ、ノゲシ、ヨモギを見つけた。

3、4、5月の3ヶ月、ステイホームして(エッセンシャルワーカーなので、仕事は休んでいないが)、読んだ本の感想を含めてまとめてみる。コロナ後の世界・未来はどうなっているのか、子どもたちに何を語ればいいのかという問題意識の中、3名の著名人の本を読んだ。まず、広井良典氏(京大こころの未来研究センター教授、公共政策・科学哲学)*1は、科学・人間・社会の未来の本で、「ふり返れば1970年代には環境や資源問題への関心が高まり、『成長の限界』も論じられようになっていった。しかし再び80年代以降に金融のグローバル化を通じた資本主義の展開が地球規模で進んでいったのは、他でもなく情報関連テクノロジーの発展と一体のものだった。それはたとえば、1秒の間に何千回もの金融取引が行われるといった、インターネット上の無限の金融空間の生成と軌道を一にするものである。そうした方向の脆弱性あるいは限界が2008年のリーマン・ショックで露呈したものの、再び上記のカーツワイルのような次なる技術突破論が現れている。足元の日本を見れば、安倍政権は一貫して金融政策主導の成長戦略を打ち出してきたが、本文で議論していくように『アベノミクス』が志向する金融市場の<無限の電腦空間>と、カーツワイルの描く<意識の無限化>のビジョンは究極において同質の方向性をもっている。以上の議論からも示唆されるように、近代科学と資本主義という二者は、限りなく拡大・成長の追求という点において共通しており、その限りで両輪の関係にある。しかし地球資源の有限性や格差拡大といった点を含め、そうした方向の追求が必ずしも人間の幸せや精神的充足をもたらさないことを、人々がより強く感じ始めているのが現在の状況ではないか」と述べている。広井氏は、現在の社会状況は成長を志向するのではなく、成熟・定常の社会状況であると主張している。そして、世界・国家は、緑の福祉国家あるいは持続可能な福祉社会を目指して

進むことが大切だと述べている。資本主義と社会主義が対立するのではなく、生態系を基礎とした生き方が現実的な課題だと私には思われる。

次に、山極寿一氏（京大総長、霊長類学・人類学）*2は、野生に学ぶ生き方の本で、「対面コミュニケーションの大切さをぼくは説いてきました。スマホを使って頭だけで友だちとつながるのではなく、面と向かって声で話し、相手の表情や態度をきちんと読んで付き合うことが必要です。相手ときちんと向き合うことは、人間が信頼関係をつくり、それを高めるためにかげがない行為だからです。人間の五感はあるとあって身体で共感し合うためにつくられているのです。その最も原初的な行為が食事です。時間をかけて人々と食卓を囲み、対面しながらさまざまな話題を交換します」と述べている。また、「新型コロナウイルスが去ったとき、世界はこれまでとは違ったものになっているはずですが、でも、人間の生物としての本質は変わりません。食事などを通じて仲間と一緒にの時間を過ごすことは、人間にとって相変わらず最大の幸福につながるはずですが、それをどういうふうにデザインするかが、未来の課題です」と述べている。教育現場にいる私が思うには、山極氏が言わんとすることは大切なことだ。人類の歴史や特性を無視した教育が子どもを不幸にしているのではないかと考える。

最後に、西川潤氏（早大名誉教授、経済学史・開発経済学）*3は、21世紀の未来論の本で、「この近未来に影響を与える世界の主要な変数として、人口、食料、エネルギー、資源、コモンズの動きを考えた。2030年を設定したのは、国連が現在の世界の危機を緩和して、持続可能な世界へのめどをつけ得る方向として、SDGs（持続可能な開発目標）を設定しており、実際、SDGsの実現の可能性をいくつかの角度から検証することが妥当と考えたからである。また、近未来は、私たちの周囲の変化について、前記変数を手がかりとして、ある程度の選択を議論することが可能な期間でもある。2030年へ向けて、世界はまず、90億人の世界へと動きつつあるが、この世界では、グローバルゼーションの下での資源配分の不平等、社会格差の拡大が進んでいる。環境の悪化も世界の持続可能性を損なっている」と述べている。そして、「新しい時代の動きは、個人の価値観の変化から始まることになるだろう。この価値観の変化（転換）によって、今日国際社会で始まった豊かさの新しい再考、すなわち国連の＜幸福感＞やOECDの＜良い生き方＝生活＞が参考になる」と述べている。私は、2005～2014年の国連ESDの10年（国連加盟国による持続可能な教育の10年のキャンペーン）にかかわって、多くの学校の教師がこの活動に意義を感じていることを聞き、感動した。それに続くSDGsは、ESD（持続可能な開発のための教育）のゴールとしての役割が重要であると思っている。SDGsから、コロナ後の世界が始まると確信している。（6月28日）

※ *1は広井良典（2015）『ポスト資本主義』岩波新書から、*2は山極寿一（2020）『スマ

ホを捨てたい子どもたち』ポプラ新書から、*3は西川潤(2018)『2030年未来への選択』日経プレミアムシリーズからの引用。

※ 引用は、藤並個人が今回の文で必要と感じたものをできる限り原文のまま転記したもの。しかし、()などの記号を省略したり、また、書き加えをしたり、文末を一部修正することを行った。文脈が間違っているなどは藤並に責任がある。

7月19日(日)午前11時頃、天気は晴れ(風なし)、気温25度くらい。亀有5丁目の自宅周辺。野鳥は、スズメを見つけた。昆虫は、ヤマトシジミ(5)、ナミアゲハ(3)、ニイニイゼミ(2)を見つけた。植物は、ノゲシ、カタバミ、ムラサキカタバミ、イモカタバミ、コヒルガオ、エノコログサ、ツユクサ、メヒシバ、オヒシバ、ヤブガラシ、ヘクソカズラを見つけた。

8月13日(木)午前6時頃、天気は晴れ(風なし)、気温28度くらい。亀有5丁目の自宅周辺。野鳥は、スズメを見つけた。昆虫は、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ウスバキトンボ(1)を見つかる。植物は、ノゲシ、ツユクサ、エノコログサ、メヒシバ、オヒシバ、アメリカオニアザミ(2)を見つけた。オシロイバナやフヨウの花が咲いていた。

7・8月も新型コロナウイルスの関係で、自宅周辺の活動のみで過ごした。本を読みながら、今までの活動を振り返り、今後の活動をイメージする期間となった。今後の環境活動の中心は、ESD・SDGsの活動であり、昆虫少年の育成である。仕事もボランティアも、その方向性での活動となる。そこで、大切なことは、「つながり」をどう維持していくかということだ。教育界では、家庭と学校と地域が連携して取り組むことが提案されて、何年たったのであろうか。それなりの成果は学校ごとにあると思うが、学校を中心に出来上がった連携は不十分である。いざ問題が起きると、親は学校や教育委員会のせい、学校は親のせい、教育委員会は行政や政治のせいにしてはいないか、よく問われるところである。土台であるコミュニティが崩れてしまえば、連携どころではないと思う。しかし、コロナ禍にあっても、地域の人々による新しい活動が見られ、感動した。たとえば、葛飾の子ども食堂では、子ども食堂も閉めざるをえなくなったにもかかわらず、配送サービスという形で地域の子どもや、困っている家庭にお弁当を配ることを、行政やNPOの支援を受けながらできたことは評価できる。自然体験活動団体も、学校休業で、ステイホームで過ごす親子のために、3蜜を避ける散歩の新しいやり方や外遊びの方法をネット上で公開し、会員以外でもアクセスできるようにするなど、若いお父さんやお母さんなどにも高評であると聞いている。お盆である。寺にお参りする方もおられると思うが、神社やお寺も開放して、子ども食堂や環境学習の拠点となってほしいと思う。(8月13日)

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
自分で指定（観察地内の植物と昆虫・指定種中心）					
鳥類は大橋周囲～小合溜を観察					
令和2年	タンポポ	シロツメ	コサギ	アオサギ	
6月15日	5	10	0	1	
7月10日	2	多数	1	0	
8月10日	3	多数	0	0	

植物と昆虫情報

- ① 水元公園の菖蒲祭りは中止だが、花はたくさん咲いていた。
 自宅の柿の葉に写真↓のようなサナギが見られた。
 どんな虫に成長するかは、観察できなかった。
 近所の保育園児が散歩中、カキの実を見て、
 「おばあちゃん、カラスにも1個あげてください」
 笑いながら「わかりました」という。でも、カラスをみたら「ダメ」でしょう。



- ② シソの葉がみな食べられている。よく見ると
 バッタの幼虫が多数いた。やや大きくなったものが側にいたので
 写真↓にいった。



③ 7月のある日の朝、玄関の一角にアゲハチョウを見つけた。
まったく動かない。思わず手でつまんだ。

「えっ、血液」

びっくりした。わずかに動いたので葉の上にした。

側に虫らしきものがいたので写真にとってみた。チョウの血液
に触ったのは初体験だった。三時間後、日のあたらない場所に移動させた。
5時間後、飛び立ったようで姿が見えなくなった。

翌日、アゲハチョウが庭に飛んできた。似た色なので「ぶじだったか？」と喜んだ。



④ 小さな自宅の庭に100円ショップで枝豆の種を購入し植えてみた。3か月で実になった。

↓ 公園内 桜土手のキノコ



野鳥情報 つばめはC地点を発見(二羽)、3ヶ所の令和2年の巣立ち総数は16羽で去年より若干増えた。小合溜周囲の冬鳥、カモ類は高温にびっくりか、6月から見られない。コサギ類もないが、これは時間によるのかもしれない。

自然観察レポート 6～8月の巻

調査区 5

佐々木定治

夏来る！今年の夏が！ 新生活スタイルの中で



6/20 水元公園 ダイサギ



7/24 水元公園 ごんばち池のアサザ



7/24 水元公園 オニバス



7/30 水元公園 ハス



7/30 水元2丁目 ヤマゴボウ



7/30 水元2丁目 イラガ

水元公園水辺の様子を観察しました。昨年からおニバスが全滅し、今年は、他の場所からの移植のようです。泥沼の中からのハスの感動！今流行りの昆虫食のイラガは炒って食すと「カシューナッツ」の味とか？

2020年の夏です。今年の夏はコロナ禍の、人類にとっては世界的な数々の困難や打撃を受け続けています。

そのため自粛生活の連続で、心して生活スタイルを変革していかなければならない日々でもありました。

そんな中でも、季節の移ろいは確かに進み、酷暑のこの夏の灼熱が、温暖化そのものだと感じさせずにはいられない状況でした。

猛暑の中でも 命力強く！



↑8/7 水元3丁目 ホオズキ



↑ アブラゼミ



↑セミの巣穴

8/14 水元3丁目 チドメグサ↓



ミソハギ ↓

ホトトギス↓



8/30 シオカラトンボ 水元2丁目↓



8/22 調査区以外で標本づくり研修会に参加しました。標本にする昆虫採集の様子です。

～青戸平和公園～

ホオズキの灯りをともしたような橙色・ひと夏を懸命に鳴いたアブラゼミ・初秋を知らせるミソハギ・鳥にもこの名があるホトトギス・誰が名付けたかチドメグサ・我が家の庭の釣り竿に止まったシオカラトンボ……。夏真っ盛りで、今年の夏の酷暑に、体がまいてしまうのではないのかと、暑さにも寒さにも強い私にとっては、衝撃的な夏でした。

コロナ禍と熱中症のダブルパンチは病む地球への警告なのでしょうか？経済にも大打撃を受けていますが、真剣に温暖化防止の対策を推進する必要がありますを痛切に感じます。

葛飾区自然環境レポーター 自由レポート（2020年6～8月）

氏名：江戸川の小鮒	調査区：主に5-24、5-26	町名：東金町
-----------	-----------------	--------

6月6日（土）水元公園（曇り）

メタセコイアの林の中で**オオタカ**が子育てしている様子。双眼鏡がなくても大きな巣が肉眼で見える。多くのバズーカ砲のような望遠レンズのついたカメラを巣に向けて撮影しているが何人もいる。これまでもオオタカが営巣していたようだが、今回も無事に子育てを終えてほしい。しかしカラスもたくさんいる都市公園で繁殖活動をしていることが何とも驚き。

ヨシ原では**オオヨシキリ**が、「ギョギョシギョギョシ」と威勢よく囀っている。初夏の到来を知らせてくれるこの鳥。東南アジアから何千キロも危険を乗り越えて渡ってきたという事実に感慨深いものを感じる。気がつけば、菖蒲田の**ハナショウブ**も見頃を迎えていた。

6月10日（水）東金町地先江戸川堤（晴れ）

18時頃から東金町地先の江戸川堤を歩いた。あちらこちらでヒバリが威勢よく空に舞い上がりながら囀っている。ヒバリの囀りは何とも言えず気持ちを明るくさせてくれる。**ヒバリ**と生息域や声色は異なるが、どことなくミソサザイの囀りと似通っている感じがしなくもない。江戸川堤でヒバリに負けじと存在感を示しているのは**セッカ**だ。そして空をスイスイと気持ち良さそうに**ツバメ**が乱舞。新型コロナウイルス禍で何となく気持ちが晴れないが、毎年変わらぬ初夏の野鳥の姿が心を明るくしてくれる。ふと空に目をやると、**チョウゲンボウ**がスーツと上空を横切っていた。少し長めの尾羽のシルエットが何とも美しい。

7月5日（日）午前：水元公園、午後：東金町地先江戸川堤（曇り）

17時過ぎに江戸川堤を歩いた。**ヒバリ・セッカ・ツバメ・ムクドリ・スズメ**を確認。東金町8丁目地先の江戸川河川敷には、国土交通省絡みの工事の残土であろうかそれらが山積みになっており、その場所にはヨシや様々な植物が生えていて、人があまり立ち入らないような状態。5月までは**キジ**もよく見かけたが、この日は**ホオジロ・オオヨシキリ**が元気に囀っていた。対岸には松戸市の「ふれあい松戸川」の美しい環境もあり、この場所は野鳥をはじめとする生き物の楽園ともいえる場所だ。江戸川堤から続く土手下の水元公園の不動池に行くと、**カワセミ**が姿を見せてくれた。空飛ぶ宝石とは言ったもので美しく色艶やかな姿はいつ見ても感動する。

7月12日（日）東金町地先江戸川堤（曇り）

セッカ・ヒバリ・ツバメ・ホオジロそれぞれの囀りを確認。オオヨシキリの囀りは確認できず。

7月18日（土）東金町地先江戸川堤（曇り）

セッカ・ヒバリ・ツバメ・スズメ・キジバトそれぞれを確認。さえずりはとうとうセッカのみとなった。

7月20日（月）自宅及び江戸川堤・水元公園不動池（久しぶりの晴れ）気温・湿度とも高め（29.3度）

自宅の庭に**ハグロトンボ** 1頭が紫陽花の葉に舞い降りた。写真を撮ろうとしたが、ひらりと飛んで行ってしまった。これまでも毎年のように庭でハグロトンボを見かけていたが、これからも美しい姿を見せてもらいたいものだ。ふと上空を見上げると、**オオタカ**の幼鳥だろうか、円を描きながら空を舞っていた（トビを見かけることはあるが、尾羽のシルエットが異なっていた）。

江戸川堤に出ると、セッカの囀りがお出迎え。久しぶりに**オオヨシキリ**の咳払いのような囀りが聞こえた。不動池ではいつものように**カワセミ**が姿を見せてくれた。

7月24日(金) スポーツの日 江戸川堤・水元公園不動池 曇り

昼頃に江戸川堤に自然観察を兼ねて散策に出ようと玄関を出たところ、隣家の物置の屋根上に**アサギマダラ**がヒラリヒラリと舞っている。そうこうしているうちに屋根の上に降り立って、羽を広げたまま屋根上でじっとして動かなくなった。渡りの途中での休憩だろうか。特に羽にはマーキングはされてはいないようだった。しばらく見ていたが動かなかったので散策に出発したが、そういえば先日も自宅の庭にヒラリヒラリと舞うアサギマダラを見かけた。

東金町 8 丁目地先江戸川河川敷を歩いていると、**カワセミ** 1 羽が水元公園不動池方面から江戸川河川敷上空を、対岸のふれあい松戸川方面へと一直線に飛んで行った。しばらく不動池で観察してから江戸川河川敷に戻ると、なんと松戸方面から先ほどのカワセミだろうか、不動池方向へと一直線に飛んで行った。もし同じ個体であれば、往復の飛翔を見ることができたことになる。なんだが得した気分。

自宅に戻ると先ほど見かけたアサギマダラの姿はなくなっていた。

8月1日(土) 江戸川堤・水元公園不動池 晴れ

18 時過ぎより、東金町 6~8 丁目江戸川堤及び水元公園不動池を歩く。セッカは相変わらず元気に囀る。**ツバメ**もスイスイ上空を飛ぶ。**ゴイサギ**もフワフワと飛んでいた。

8月2日(日) 江戸川堤・水元公園不動池 晴れ

17 時 30 分から前日と同じコースを散策。江戸川堤では**セッカ**計 3 羽の囀り・**ツバメ**も多数乱舞。不動池では**カワセミ** 3 羽が激しく飛び交う場面に遭遇。3 羽がどういう関係なのか分からないが、池の上を行ったり来たり、時に 2 羽が絡み合うような場面も。

8月10日(月) 江戸川堤 晴れ

18 時 30 分頃見事な夕焼け。刻々とそのグラデーションが変化する様子には感動させられた。まだ**セッカ**だけは囀りが聞こえた。これまで何となくしか確認していなかったが、コロナ禍でしっかりと観察したことでセッカがこれだけ長い期間囀ることを確認することができた。そしてついに**エンマコウロギ**も鳴き始めた。

8月15日(土) 葛西神社・江戸川堤 晴れ

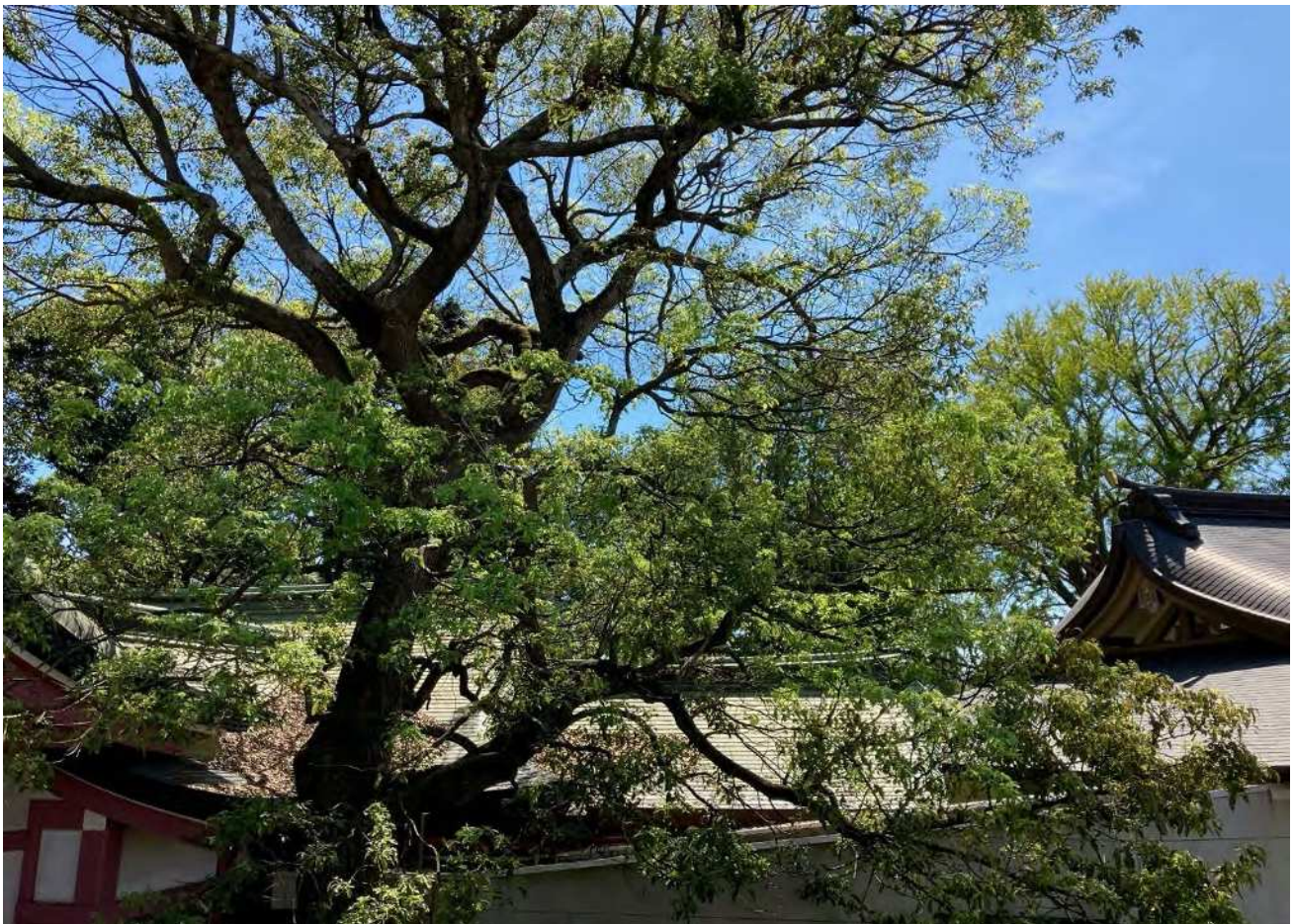
東金町 6 丁目の葛西神社にて**ツクツクボウシ**が鳴き始めた。また、夕方に江戸川堤への散歩に出かけた帰り道、近所の庭から**カネタタキ**の鳴き声が聞こえてきた。猛暑が続いているとはいえ、季節はしっかりと秋へと向かっている。そういえば夕日が沈むのも早くなった。

8月22日(土) 江戸川堤 晴れ

セッカの囀り。

8月30日(日) 葛西神社江戸川堤 晴れ

・江戸川堤の草むらから、**カンタン**の「ルールー」という鳴き声が聞こえた。久しぶりに聞く鳴き声にしばらく足を止めた。
・葛西神社の**クスノキ**が複数 8 月に入ってから大量の葉を落とし始めた。これまであまり記憶にないが、その後なんと新緑が出てきた。まるで新緑の季節に戻ったかのよう。これまで 4~5 月にかけて古い葉が落葉して新しい葉に入れ替わる場面しか見たことがないが、レポーターの皆さんの地域のクスノキはいかがでしょうか？一昨年はケヤキが 11 月になって新緑を出している写真を投稿しましたが、この現象は一体何でしょうか。温暖化などとも関係してるのでしょうか。時々起こる現象なのでしょうか(写真を添付します)。もし詳しい方がいらしたら是非本レポートに次回投稿ください。



季節の写真集 (6月～8月)



「ブーゲンビリア」
6/29 お花茶屋 名前：Ryu



「歩道のジャガイモ」
6/29 お花茶屋
名前：R



「ネジバナ」
6/20 区北西部
名前：石鍋 壽一



「シオカラトンボの雄」
8/30 水元2丁目 名前：佐々木 定治



「窓からの来訪者」
7/21 お花茶屋
名前：R

「オオタカ」
6/17 水元公園
名前：高橋 雅子



「タケニグサ」
7/4 区北西部
名前：石鍋 壽一

「カポック実る」
7/30 お花茶屋
名前：Ryu





「ガガイモ」
8/10 区北西部
名前：石鍋 壽一



「快晴」
8/19 お花茶屋
名前：R



「オシロイバナ」 8/21
お花茶屋
名前：Ryu

あきごう まめちしき 秋号の豆知識



「ナミアゲハ」 P.3

ナミアゲハのメスは、後ろ翅にメスの特徴である赤い紋がある。はっきり映っていないので確定はできないが、おそらくオスであろうと思われます。

「アオイラガの幼虫」 P.12

柿の葉などにつき、触れると電気のような痛みが強く、みるみる腫れてきます。
鋭い痛みが1時間ほど続き、そのあと、かゆみが続きます。



「ヨウシュヤマゴボウ」 P.14

全体が有毒植物です。
間違っって口にしないでください！
販売しているヤマゴボウの漬物は、「モリアザミ(山中にあるためあまり目にしません。）」や食用のゴボウの細い根を漬けたものです。



《樹木について》

木は、外敵に襲われたりしても移動できません。そこで外敵(自然環境や害虫等)に出会った時に、自分を守るために出来るだけ体力を使用しないよう、葉を落とすことがあります。しかし、そのままでは光合成が出来ないため、体力がついてきた時点で、季節に関係ない状態(真冬を除く)で新しい芽を出し、光合成を行って体力の回復をします。



今回は、「秋号イチオシの生きもの」をお休みして、個体の特徴や注意点を豆知識として取り入れてみました。これからも色々ご紹介していきたいと思います。

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-275

調査回数 調査日 地点	277			備 考
	2020/6/20			
	本流	新八水路	新八ワンド	
1 ア シ シ ロ ハ ゼ	8 50-69			
2 ウ キ ゴ リ		2 40-45		
3 ウ ナ ギ	1 92			
4 オ イ カ ワ	16 49-85			
5 カ ダ ヤ シ		3 11-24	6 9-16	特定外来生物
6 ギ ン ブ ナ	1 43	4 23-32	1 29	
7 コ イ	1 43	6 22-29		
8 コ ク チ バ ス	7 37-205			特定外来生物
9 ゴ ク ラ ク ハ ゼ	12 45-75			
10 ス ゴ モ ロ コ	9 42-75			
11 ス ズ キ	5 53-96			
12 ス ミ ウ キ ゴ リ		5 30-37		
13 タイリクバラタナゴ	3 38-54		5 10-15	
14 ド ジ ヨ ウ		5 28-140		
15 ニ ゴ イ	31 32-132			
16 ス マ チ チ ブ	62 42-78			
17 ポ ラ	17 59-385			
18 マ ハ ゼ	101 35-77			
19 マ ル タ	3 36-73			
20 メ ダ カ			2 15-35	
計	15種類277個体	6種類25個体	4種類14個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて20種類316個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温28.2℃、水温 本流23.0℃、新八水路25.0℃、新八ワンド26.0℃（15:30頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 水位が低くて採集はしやすかった。しかし本流の流速は速かったので、午前中の初参加者の監視には気を使った。
ヨシノボリの仲間のゴクラクハゼが複数採れた。汽水域や淡水域でも繁殖の可能性があるとの情報があるが、未だ小さな個体が採れていないから繁殖の正否は不明だ。しかし未成魚のヨッシーとの見極めは難しそうだ。（YK）
- ・ コクチバスの子供が、水深数cmの、浅いところで網にかかりました。
外来種のアレチウリが発芽していました。気づいたら駆除にご協力ください。（KI）
- ・ 久しぶりに天気が良く、魚もたくさんいた。
特にハゼ類が多く、一回投げると2、3匹入ることもあった。ウナギがいてびっくりした！
子供や見学者も多く賑やかな調査だった。（AN）
- ・ 測定の際は皆がコロナ対策でマスクをしていたが、言葉の伝達が思いの外しっかりとできていたので良かった。（SI）

【今後の調査日】 7月4日(土) 8月1日(土) 9月5日(土) 10月3日(土) 11月1日(日)
12月12日(土)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-276

調査次数 調査日 地点	278			備 考	
	2020/7/4				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	1 57			
2	ウ キ ゴ リ		1 45		
3	オ イ カ ワ	3 62-64			
4	カ ダ ヤ シ		10 16-25	9 11-28	特定外来生物
5	カ ム ル チ ー		1 40		
6	ギ ン ブ ナ	1 46	5 25-40		
7	ク ロ ダ ハ ゼ	1 28			
8	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	1 54			
9	コ イ	6 56-73	1 21		
10	コ ク チ バ ス	4 53-65			特定外来生物
11	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	6 53-82			
12	ス ズ キ	5 86-105			
13	ス ミ ウ キ ゴ リ		1 40		
14	タイリクバラタナゴ	2 45-53		1 15	
15	デ メ モ ロ コ	3 65-68			
16	ド ジ ヨ ウ		3 28-77		
17	ニ ゴ イ	33 36-404			
18	ヌ マ チ チ ブ	52 18-72			
19	ハ ス	1 121			
20	ボ ラ	17 53-380			
21	マ ハ ゼ	44 42-86			
22	メ ダ カ		1 23	3 11-14	
23	モ ツ ゴ	1 48	1 32		
計		17種類181個体	9種類24個体	3種類13個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて23種類218個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇、気温28.4℃、水温 本流24.5℃、新八水路22.1℃、新八ワンド25.0℃（14:30頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 新八水路で外来肉食種のカムルチーが採れた。カムルチーはコリア語が標準和名になった珍しい魚だが、魚やエビ類を丸呑みで捕食するため駆除した。水路かワンドで繁殖したのかもしれない。（YK）
- ・ 本流に、イトモらしき沈水植物（水草）が生えていました。水の透明度が上がってきているのでしょうか。
釣り好きらしい方から、下流側に、江戸川でもアユがいつく場所があるよ、というお話をうかがいました。調査範囲外で残念。（KI）
- ・ ワンドで、特定外来生物のオオフサモ（水草）を大量に確認、駆除。切れ藻から再生するという説もあり、調査時はホテイアオイと同様に確認次第駆除したい。（SI）

【今後の調査日】8月1日(土) 9月5日(土) 10月3日(土) 11月1日(日) 12月12日(土)

HP(<http://shigenori1.jimdo.com/>)新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-277

調査次数 調査日 地点	279			備 考	
	2020/8/1				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ウ ナ ギ	1 88			
2	オ イ カ ワ	5 57-100			
3	オ オ ク チ バ ス	1 98			特定外来生物
4	カ ダ ヤ シ		7 16-30	11 12-23	特定外来生物
5	カ ワ ム ツ	1 68			初採取
6	ギ ン ブ ナ	8 53-98			
7	ク ル メ サ ヨ リ	1 165			
8	ク ロ ダ ハ ゼ	1 27			
9	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	1 46			
10	コ	1 56	1 37		
11	コ ク チ バ ス	8 65-100			特定外来生物
12	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 65			
13	ス ゴ モ ロ コ	2 68-80			
14	ス ズ キ	2 142-158			
15	ス ミ ウ キ ゴ リ		3 37-40		
16	ツ チ フ キ	4 60-80			
17	デ メ モ ロ コ	4 71-87			
18	ニ ゴ イ	20 48-165			
19	ヌ マ チ チ ブ	69 20-80			
20	ボ	40 60-395			
21	マ ハ ゼ	34 31-86			
22	マ ル タ	1 87			
23	メ ダ カ		8 15-23	8 15-25	
計		20種類205個体	4種類19個体	2種類19個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて23種類243個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温29.5℃、水温 本流23.8℃、新八水路24.9℃、新八ワンド31.6℃（15：00頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 中流域に住む私にとって、まさかカワムツが下流の新八水路で、新期出現種になるとは思わなかった。カワムツは天竜川以西を天然分布域としていて、オイカワに少し似るが、臀鰭が丸みを帯び、体側中央に太い縦帯があり、鰭が黄色みを帯びていること、側線上鱗数がカワムツの方が少ない（鱗が粗い）こと、雌雄・未成魚ともに体色が銀色を帯びることがないこと、などの特徴で識別されます。（YK）
- ・ 朝、水路の前あたりを、2羽のサギ（アオ？）の幼鳥が飛んでいました。だいぶ樹木が大きくなってきたので、近くで営巣したのかもかもしれません。（KI）
- ・ ワンドで前回駆除したオオフサモが二株残っていた。細かな部分でも残るとそこから繁殖するようなので、これからも毎回注意が必要だ。（SI）

【今後の調査日】9月5日(土) 10月3日(土) 11月1日(日) 12月12日(土)

HP(<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

夏の自然観察会を行いました♪

令和2年7月11日(土曜日)に自然環境レポーターの研修会を行いました。研修会前半は、青戸平和公園へ自然観察に行き、その後、青戸地区センターでは、クイズをしながら生物多様性について学びました。そして、レポーター通信が貴重な資料になっていることを改めて知りました。

次回は、12月上旬に行う予定です。レポーター同士の交流やレベルアップのためにも、皆さまのご参加をお待ちしております。



シロテンハナムグリ。樹液がすごく出ているので、夜になると、カブトムシが来そうです。



クヌギの木。樹液があれば、カブトムシが寄ってくるかも…



区役所で見つけたサナエトンボ。黒い地に黄色い模様が特徴。



レポーター通信は、後で貴重な資料になるので、個体がわかるように写真を撮り、名称など分からなければ、聞いてほしい。

グッドかわせみ賞受賞者 18名をご紹介します!

グッドかわせみ賞は、年に7回以上レポーター活動に励んだ方に授与されます。
受賞された皆さんには、賞状と記念品を委嘱式時にお渡しました。委嘱式を欠席された方には郵送しております。

荒井敏夫さん、石鍋壽一さん、江戸川の小鮒さん、
江良ヒデ子さん、T. Kさん、K. Nさん、
佐々木定治さん、散歩の花子さん、高橋雅子さん、
田村ひろ子さん、中嶋みゑさん、RYUさん、
Rさん、ゆきひめさん、藤並剛さん、森本龍司さん、
弥生さくら草さん、鷺田秀和さん



今年度もグッドかわせみ賞を目指しましょう♪

★新八水路で魚類調査を行います★

日 時 10月3日(土)、11月1日(日)、12月12日(土)

午前10時～午後4時ごろ

場 所 江戸川河川敷 寅さん記念館下まで直接お越しください。

持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス

詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>)

★綾瀬川や曳舟川親水公園等で行う魚類などの調査を見学しませんか★

採取した生物を展示して、調査結果の概要を説明します。直接会場へお越しください。

◆日 時 10月2日(金) 9時00分～

調査結果の説明 11時30分～(30分程度)

※雨天時は10月19日(月)

場 所 綾瀬川(東四つ木避難橋付近)

◆日 時 11月16日(月) 13時30分～

調査結果の説明 15時30分～(30分程度)

※雨天時は11月24日(火)

場 所 葛飾あらかわ水辺公園付近

◆日 時 11月17日(火) 12時30分～

調査結果の説明 15時30分～(30分程度)

※雨天時は11月25日(水)

場 所 曳舟川親水公園付近



～秋号でご協力いただいたみなさま～

Rさん、石鍋壽一さん、江戸川の小鮒さん、江良ヒデ子さん、
K. Nさん、佐々木定治さん、散歩の花子さん、高橋雅子さん、
田村ひろ子さん、T. Kさん、中嶋みゑさん、藤並剛さん、
森本龍司さん、弥生さくら草さん、ゆきひめさん、
RYUさん、自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました☆彡

「水辺のふるさとかつしか」第314号
(葛飾区 自然環境レポーター通信第266号)
令和2年9月30日 発行
葛飾区環境部環境課自然環境係
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1
Tel(3695)1111 内線3522~3
直通電話 (5654)8237
fax (5698)1538
校正:NPO 法人水元ネイチャープロジェクト



◆「水辺のふるさとかつしか」の内容について、お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。